

奈良 勲, 鎌倉矩子(シリーズ監修)
富田 豊(編)

《標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野》
「小児科学 第3版」

大野耕策
(鳥取大学教授・脳神経小児科)

●障害のある小児と家族に接する姿勢・態度の習得を
意図した書

本書は広島県立保健福祉大学保健福祉学部作業療法学科・教授、鳥取大学医学部保健学科・教授を経て、現在京都民医連中央病院検査科・科長を勤める富田豊先生の編集による理学・作業療法士を目指す学生のためのシリーズテキストの1冊で、2000年に初版が発行され、今回が第3版の発行となる。

富田先生は小児神経科専門医として、発達障害児、肢体不自由児、知的障害児、重症心身障害児の医療に長年かかわってこられ、また同時にこれら障害のある子どもにかかわる専門職の方たちへの専門教育を長く担当してこられた。このテキストブックは、富田先生のご経験をもとに、このような障害のある子どもと接する理学・作業療法士が、小児科学の知識を持つだけでなく、育児・保健指導、教育との連携、就労や生活指導などについても大きな役割を果たすことを期待して編集されている。また、本書は理学・作業療法士に必要な知識を重点的・効率的に習得させるために、医学や看護学における小児科学のテキストブックとは異なった構成となっており、それぞれの章で理学・作業療法との関連事項がまとめられ、小児科学を学ぶモチベーションを高める編集となっている。

第1章の「小児科学概論」では、小児の成長・発育を記述した後に栄養と摂食についてが、また小児保健の項では小児の予防接種、学校保健についてがそれぞれ重点的に記載されている。第2章の「診断と治療の

概要」では心身の発達を視野においたリハビリテーション、教育との連携、就労と生活支援の重要性が強調されるとともに、小児の救急処置が重点的に記載されている。本書ではこれら2つの章で小児の発育と発達、診断と治療に関する基礎的知識を述べ、小児に接する理学・作業療法士の役割が明確に記載されている。

第3章以降では、小児の脳神経系の障害の原因として頻度の高い「新生児・未熟児疾患」、「先天異常と遺伝病」、「神経・筋・骨系疾患」が記載され、その後に小児科学各論の臓器別の疾患が循環器、呼吸器、消化器などの順序で記載され、第16章の「重症心身障害児」、第17章の「眼科・耳鼻科的疾患」で完結している。小児科学は疾患の数が多く、学習は決して楽ではないが、本書の記載は簡潔かつ明瞭で、図表も多く、独学でも勉強しやすく編集されている。また、家族から信頼されるようになること、よき相談相手となること、子どもの健康の異常に早く気付くこと、心身の健全な発達の促進を意識すること、などの重要性とその具体的方法が随所に記載されており、学習意欲が高まるようにも編集されている。

このように本書は、小児科学のテキストブックとして理学・作業療法士に必要な小児の疾患を重点的、効率的に記載することに成功しているだけでなく、各章の内容と理学・作業療法との関連を記述することで学習のモチベーションを高め、さらに、障害を持つ小児に接する姿勢と態度を育成する意図を随所に溢れさせたユニークな仕上がりとなっている。本書は、このテキストブックで学習して理学・作業療法士になられた方たちと一緒に仕事をしたいと感じさせる、優れた小児科学のテキストブックである。

●B5判 264頁

定価 4,410 円(本体 4,200 円+税 5%)
2009 年 医学書院・刊